

命を育むために 最も大事な「食」

SDGsの観点でも、自分事として
捉えていきたい

JAグループサポーター
林修

なぜ今?
国消国産

世界の平和にも大切な 「食」の安定

世界の紛争地域や自然災害の被災地で食料支援を行う「WFP」という国連機関が、2020年のノーベル平和賞を受賞しました。あらためて、**食料の安定供給が、その国の安定や世界の平和にとっていかに大事であるか**が示されました。受賞を報じるこちらの新聞記事にもあるように、世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれています。私たちは飢餓の実態を他人事のように捉えがちですが、自然災害や人口増加などによって、世界における食料の安定供給のリスクは、確実に高まっています。

食料を輸入することについて 環境面からも考える意識

例えば、同じ100円のレモンでも、米国産と国産では何が違うのでしょうか？もちろん、味や品質も違いますが、米国産は1万キロ以上を大型船舶で、国産は数百キロをトラックで運んでおり、輸送にかかるエネルギーや環境負荷が大きく異なります。**食料を輸入するとはどういうことか、食料の安定という面だけではなく、環境面からも考える必要**があります。

だから今!
国消国産

SDGsの達成にもつながる「国消国産」

「**国民が必要とし「消費**する食料は、できるだけその「**国**」で生「**産**」していくという「**国消国産**」をすすめることは、食料を輸入に依存しないということにつながり、ひいては、食料の安全保障と持続可能な農業の促進を目標とするSDGsのゴール2「**飢餓をゼロに**」や、ゴール12「**つくる責任 つかう責任**」、ゴール13「**気候変動に具体的な対策を**」にも通じるものです。



ここがポイント!

- 食料の安定は、世界の平和にもつながっていく
- 食料の輸入について、食料の安定という面だけでなく環境面も意識が必要
- 「国消国産」で、SDGsの達成にも貢献

世界食糧計画に平和賞

ノーベル賞「飢餓と闘う努力」

2020年のノーベル平和賞は9月、2019年のノーベル平和賞を創設した食料を囲む「国連世界食糧計画（WFP）」を顕彰する賞として、紛争や自然災害に苦しむ国々への食料支援活動に貢献したWFPの努力が認められた。WFPは、紛争や自然災害に苦しむ国々への食料支援活動に貢献したWFPの努力が認められた。WFPは、紛争や自然災害に苦しむ国々への食料支援活動に貢献したWFPの努力が認められた。

国連機関

国連世界食糧計画 (WFP)

飢餓のない世界を目指す活動する国連の食料支援機関で、1961年に設立された。緊急時に命を救い、暮らしを守ることや、その後の暮らしの再建、機能的な飢餓や栄養不足を減らすことなどを目標とする。世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれるなか、2019年には88の国・地域で約9700万人に食料を供給。1万7千人以上の職員は多くは途上国の現場で直接、支援に当たる。外務省などによると18年の全体の予算約73億。に対し、日本の政府拠出額は約1億3千万。民間からの寄付は約1200万。だった。46人の日本人職員（専門職以上）が働ける。

WFPは、学校が休校になった地域にも食料配給を行っている。食料配給の拠点を設けた。中東やアフリカの国々では、給食だけでなく、食料や...

出典：朝日新聞(2020年10月10日付) 朝日新聞社に無断で転載することを禁じます(承諾番号21-0896)



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ